

■サンゴの島での農業とは？（沖縄県伊江島）



伊江島（フェリーより撮影、中央の小高い岩山が「タッチュー」）

沖縄本島の北部に位置する伊江島をご紹介します。面積 23km<sup>2</sup>、周囲 22km のサンゴの離島に約 5,000 人が暮らしています（平成 22 年度末）。最近は、修学旅行生を中心に、民家に宿泊する「民泊」が盛んです。

フェリーの着岸時です。

島の生活を支えるカーフェリーは 1 日に 4 往復（夏休みは 5 往復）。物資を運ぶためのフォークリフトが待ち受けています。なお、新聞は独自の物流ルートがあるため、早朝に配達されます。



2011.6.14

島の農業を紹介します。

土壌は島尻マーヅです。

葉タバコ（右写真）、サトウキビ、菊、島ラッキョウ、トウガン、が主たる畑作物です。

今年は、残念ながら 5 月下旬に台風 2 号が直撃し、葉タバコを中心として大きな被害を受けました。



2008.4.23

製糖前のサトウキビ。黒砂糖になります。



島ラッキョウ畑。伊江村は、沖縄県の拠点産地として認定されています。  
後ろに見えるタッチューは島のシンボルです。



フェリー乗り場で販売中の島ラッキョウ。



村役場で見かけた大きなトウガン。こちらも沖縄県の拠点産地として認定されています。





タッチューから見た島内と筆者。

遊歩道が整備されており、山頂まで約 15 分です。島内が一望できます。対岸に見えるのは本部半島です。



島の東側です。平坦な島内に農地が広がっています。

島は琉球石灰岩で形成されており、雨はすぐに地下へしみ込むため、川がありません。そのため、古くから水の確保には苦勞していました。

現在、水道水は海底パイプラインで沖縄本島から供給されています。



コンクリート製の農業用ため池が多数あり、舗装面に降った雨を溜めています。農家さんは、トラックにタンクを積んで、利用しています。

ただし、富栄養化が課題です。窒素・リンの流入を防ぐバイパスや清浄な雨水の導入による希釈が、有効な対策と考えられます。



地下水をせき止める「地下ダム」が 2004 年から造られており、より安定的な農業用水の確保と、さらなる農業の発展が期待されています。

右はイメージ模型です。地下に水を貯めるための止水壁を作ります。



地下ダム工事の現場です。

完成後は表土が戻されるため、以前と同様の農業が営まれます。



島の北側と南側は、対照的な光景です。南側はサンゴの砂浜が広がり、ビーチがあります。



北側は、ゴツゴツとした岩が露出する断崖です。湧出（ワジ）展望台は島を代表する景勝地です。



第2次世界大戦では、伊江島も戦場となりました。戦前からの建物で島に唯一残るのが、右の公益質屋跡です。弾痕が戦況の激しさを語っています。



夜はとても静かです。喧騒とは無縁の穏やかな時が  
流れます。



フェリーの離岸時です。民泊のホストファミリーさん  
が修学旅行生を見送っています。



最後は、珍しい写真を3点です。

- 右：ダブルレインボー
- 右下：上り便で島の上空を通過
- 左下：下り便で島の西側を通過

